

1. 略歴

1986年3月	東京大学文学部美術史学専修課程卒業（文学士）
1989年3月	東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了（文学修士）
1997年2月	フライブルク大学哲学部 Ph.D
1997年4月	電気通信大学電気通信学部助教授（～1999年3月）
1999年4月	東京学芸大学教育学部助教授（～2006年3月）
2006年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授
2007年4月	同上准教授
2011年3月	同上教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

西洋美術史

b 研究課題

デューラーを中心とした中近世ドイツ美術、聖遺物と美術との相関性、イメージ（像）の生動性、比較宗教美術史

c 概要と自己評価

主として西洋中近世における教会宝物や宮廷宝物についての研究を、美術と宝物との相関性および宮廷における宗教文化を意識しつつ展開した。また宝物および宮廷に重点をおきつつ、比較宗教美術史的考察をも展開した。

2016年度には、宮廷と美術についての比較美術史的観点からの検討を目指し、諸地域の宮廷美術について調査研究を行ないつつ、これまでの成果の発信に努めた。5月および9月にオーストリア、チェコでの宮廷美術および宝物関連の調査研究を行なった上で、比較美術史的研究の成果を1月にフィレンツェにおいて発表し、欧米の研究者と意見交換をする機会を得た。また2月にはハイデルベルク大学のD・アイヒベルガー教授を招聘し、16世紀末バイエルン宮廷における結婚式についての講演をしていただくとともに、徳川家における結婚式との比較を行なった。なお、前年度から着手したレガリアについての比較研究は、さらに進捗をみ、その成果は29年度にベルギーの出版社から刊行される論文集に掲載された。2017年度には、国内の宗教美術史、修験道建築史の専門家との意見交換を行ない、比較宗教美術史を展開させる上で有効なトピックの選定を進めた。また、熊野の新宮市を拠点に、大峰奥駈道や熊野古道小雲鳥越等を複数回実地踏査し、宗教的造形物と周辺環境との関連性について様々な知見を得ることができた。併せて次年度4月の海外研究者による同市での比較宗教美術史に関わる研究会および6月の地中海学会大会中での比較宗教美術史に関わる催しについての打ち合わせも進めた。海外調査としては、フランクフルト、ベルリン、ドレスデン等において、宗教改革記念展等を実見し、宗教者と造形との関係についての比較美術史的研究の可能性も検討した。なかでもザクセン地方デーベルンにおいては、十字架降下儀礼に用いられた可動腕付き磔刑像の実見調査を行うことができ、造形を用いた儀礼についての比較研究にとつての新知見を得ることができた。国際学士院連合の総会を記念しての講演会のために来日された西洋中世美術研究の碩学M.キャヴィネス教授と親しく議論を交わす機会を得、比較宗教美術史研究の将来性について、様々な観点から確認することができた。氏とは実際に東京国立博物館の運慶展や根津美術館の仏画展を見学しつつ、比較に資する観点の抽出を行なった。また独協大学の宗教改革500周年を記念しての国際ワークショップでのA-M.ボネ教授との交流も有益であった。

なお、立ち上げから関わってきた全学の教育プログラム、体験活動プログラムおよび初年度長期休学制度（FLYプログラム）には引き続き協力を続けてきたが、2017年度より新宮市および国際熊野学会の協力の下に、熊野における体験活動プロジェクトを開始するに至り、濱田前総長の参加、石井理事の視察を得た。また、2015年から引き続き日本学術会議の連携会員として美術館・博物館委員会に所属し幹事を務め、学芸員の科研費取得資格の拡大に向けて作業を重ねている。

d 主要業績

(1) 著書

共著、秋山聰ほか、『物質性的人类学』、同成社、2017年3月、pp.105-192（「動く像—キリスト教中世における像の生動性について」）

共著、秋山聰ほか、『西洋美術の歴史5：ルネサンスII 北方の覚醒、自意識と自然表現』、中央公論新社、2017年、p.39-112

単著、秋山聰、『天才と凡才の時代—ルネサンス芸術家奇譚』、芸術新聞社、2018年1月、272pp.

(2) 論文

秋山聰、The Sacred Footprints, examined from Comparative Perspectives, in: M.Faietti/G/Wolf(eds.), Power of the Line, Munich 2017, pp.96-105

秋山聰、「妻の力—初期近世ドイツにおける共同事業者としての画家夫妻について」、『西洋美術研究』19、pp.163-174、2017年10月

秋山聰、Relic or Icon?, The Place and Function of Imperial Regalia, in: Ch.Goettler/M.M.Mochizuki (eds.), *Nomadic Object: The Challenge of World for Early Modern Religious Art*, Leiden 2018, pp.430-447

(3) 学会発表等

秋山聰、「比較宗教美術史の試み：聖なるものの東西」、環境問題研究会：聖なるものの表現をめぐって—美術史と建築史の視点から—、新宮市、和歌山県、2016年5月21日

秋山聰、Sanshu no jingi and Reicheskleinodien: A Comparative Study on Imperial Regalia, KHI セミナー、マックス・プランク学術協会在フィレンツェ美術史研究所、2017年1月25日

秋山聰、松崎照明、「熊野への誘い—建築史家と美術史家が見出したことども」、地中海学会研究会、首都大学秋葉原サテライト・キャンパス、2017年4月15日

秋山聰、Comparing Engraved Portraits of Cardinal Albrecht von Brandenburg: On Differences between Durer and Cranach、獨協大学ワークショップ「ドイツ・ルネサンス芸術の研究—ドイツ・ルネサンス美術における革新性（イノベーション）とは何か」（招待講演）、2017年11月10日

秋山聰、「宮廷画家とは—クラーナハの場合」、美術史学会東支部大会、国立西洋美術館、2017年12月17日

(4) 翻訳

秋山聰／太田泉フランス共訳、マデリン・キャヴィネス、「ザクセンシュピーゲル彩飾写本における女性とマイノリティ」『日本学士院紀要』、72巻特別号、7-48頁、2018年3月

(5) 研究テーマ

科学研究費補助金、基盤研究（B）秋山聰、研究代表者、「宮廷と美術に関する比較美術史学的研究」、2014～2016
科学研究費補助金、挑戦的萌芽研究、秋山聰、研究代表者、「比較美術史学研究の国際的ネットワーク構築に向けた基礎的研究」、2016～2017

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、青山学院大学、「西洋の宗教と芸術／芸術史特講（2）」、2016.4～

非常勤講師、國學院大學大学院、「西洋美術史」、2016.4～

(2) 学会等

美術史学会、常任委員、東支部編集事務局担当、2014.4～2016.5

地中海学会、常任委員、大会準備委員会委員長、2016.4～

国際美術史学会（CIHA）日本委員会、事務局長、2016.4～

同上、東京コロキウム2019事務局長、2016.4～

日本学術会議、連携会員、博物館・美術館委員会幹事、2016.4～

Art in Translation 誌（英国）、Advisory Board、2016.4～

Iconographica 誌（イタリア）、Advisory Board 2016.4～